

令和5年1月 静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場ニュース

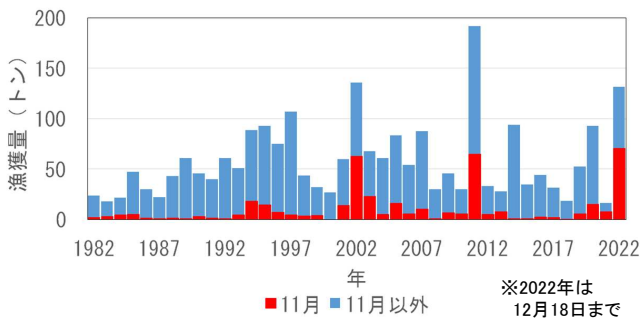
定置網にウルメイワシが大量水揚げ

伊豆東岸地区の定置網でウルメイワシが大量に水揚げされています。9月頃から漁獲量が増えて始め、11月の漁獲量は70.2トン、11月としては記録が残る1982年以降で最多となりました。また、年間漁獲量としても12月18日時点で100トンを越えており、2011年以来の高い水準となっています。

主に漁獲されたのは、熱海地区（伊豆山、古網）の定置網で、日によって5トンを超える量が漁獲されることもあったようです。

ウルメイワシはまき網や定置網などで漁獲され、丸干しなどの干物原料になりますが、鮮度が良いものは刺身や塩焼きで食べると美味しい魚です。近所のスーパーに伊豆産のウルメイワシが並んでいることがあるかもしれません。

伊豆東岸地区定置網におけるウルメイワシの漁獲量(上) → 水揚げされたウルメイワシ(下)



クボガイ復活？

伊豆半島では2017～18年にかけて、クボガイ科巻貝が激減しました。その後は徐々に回復の兆しがあり、当场が把握している範囲では、東伊豆町稲取地先や西伊豆町地先にて、漁場によってはクボガイ科巻貝が見られる状況のようです。両地区の漁獲物を確認したところ「ハソアキクボガイ」という種類とみられ、入手サンプル中に「クボガイ」はみられませんでした。

一方で漁業者からの情報によると、以前はおそらく「クボガイ」が優先していたようです。

なぜ、現在「ハソアキクボガイ」が優先しているのか不明ですが、もしかしたら同じクボガイ科でも回復に遅速があるのかもしれません。



↑ハソアキクボガイ
同種は殻の裏側中心部に穴が空いている。
一方、クボガイは穴が空いてない。

長期漁海況予報会議より

12月20～21日に太平洋いわし類、マアジ、さば類長期漁海況予報会議が開催され、2023年1～6月の漁海況予報が採択されました。

黒潮大蛇行は今後も継続し、本県周辺海域（熊野灘～遠州灘～相模湾）の水温は“「平年並」～「高め」で推移し、暖水波及時には「極めて高め」となることがある”と予測されました。各魚種の来遊量予測は下表のとおりです。内容の詳細については水研機構ホームページをご覧ください。

https://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease/pr2022/20221223_2/index.html

なお、伊豆半島東岸定置網の1～6月の漁海況予測は次号でお知らせします。

予測項目(魚種)	来遊量予測
マイワシ	房総以北では前年並～上回り、相模湾以西では前年並～下回る
カタクチイワシ	引き続き低水準で、前年並～下回る
ウルメイワシ	全体として前年並
マアジ	前年並となる海域が多い
マサバ	低調であった前年並となる海域が多い
ゴマサバ	低水準

1月の予定 ●相模湾漁海況研究協議会（17日） ●キンメダイ資源評価担当者会議（18日）

●漁業士認定委員会（19日） ●静岡県水産振興審議会（25日）

●潜水調査（土肥 テングサ施肥試験、稲取 アントクメ調査）

連絡先：静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場 〒415-0012 下田市白浜251-1 電話：0558-22-0835

アドレス：suigi-izu@pref.shizuoka.lg.jp ホームページ：https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/izu

当場には、自由に見学できる展示施設があります。皆様のお越しをお待ちしています。